

令和3年国立市議会第1回定例会

行政報告

おはようございます。

皆様のご出席をいただき、第1回定例会が開会されますことに対し、深く感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症への対応についてですが、令和3年第1回臨時会冒頭のご挨拶でも申し上げたとおり、2度目の緊急事態宣言の発令に対しましては、国立市健康危機管理対策本部にて市の対応方針を決定し、感染拡大防止を徹底しつつも市民生活を維持するため、市の業務を原則として継続してまいりました。

さらに、新型コロナウイルス感染症による自宅療養患者、及び重症化リスク化等のある濃厚接触者に対し、血中酸素飽和度及び脈拍を測定する機器であるパルスオキシメーターを貸与する事業を開始しました。既に東京都が自宅療養患者、特に高齢の方などの優先度の高い方から順次貸与していますが、国立市においては自宅待機者等支援事業と一緒に周知し、都の貸与対象外となる濃厚接触者も含め在宅療養を支援してまいります。

市民の皆様にはご不便、ご迷惑をおかけしておりますが、

感染拡大防止のため、引き続きマスクの着用、手洗いや密を避ける等の基本的な感染症対策の徹底をお願い申し上げます。

それでは、11月定例会以降の行政執行の主なものについてご報告いたします。

初めに、政策経営部関係です。

人権週間におけるイベントについてですが、12月17日に公民館地下ホールにおきまして、「一人ひとりの「らしさ」を大切にしあえるまちへ～SOGIハラ・アウティングのない社会とは～」と題し、ライターとしてLGBTに関する情報発信を行っている松岡^{そうし}宗嗣氏と弁護士^{としまさ}の山下敏雅氏による講演会を開催いたしました。

当日は、31名の方にご参加いただき、国立市のパートナーシップ制度やアウティング、SOGIハラスメントについて事例を交えながら、市民一人ひとりができることや自治体として居場所づくりが大切であることなど、講師2人の体験や活動を通し、多様な性について考える機会といたしました。

次に、国立市公共施設再編計画（案）についてですが、10月19日に、これからの公共施設の在り方審議会から答申をい

ただいたのち、2月3日に市民説明会を行い、市民の皆様からのご意見を踏まえた形で、市の計画案として取りまとめを行いました。

なお、詳細につきましては、本定例会中の総務文教委員会に報告させていただきます。

次に、行政管理部関係です。

平成31年（2019年）3月8日に提起された、職員の行為により自己情報コントロール権を侵害されたとして市に慰謝料等の支払を求めていた損害賠償請求事件についてですが、令和2年（2020年）12月7日に判決が言い渡され、同月24日に確定いたしました。

なお、詳細につきましては、本定例会中の総務文教委員会に報告させていただきます。

次に、健康福祉部関係です。

シニアカレッジ研修についてですが、10月20日から開始した23日間46時間の講習が終わり、2月4日に修了式を行いました。参加した11名の市民の方々へは、市の高齢者等への生活支援体制を担っていただくべく、今後も生活支援サポーター研修等への参加等を促してまいります。

次に、子ども家庭部関係です。

幼保小連携に関する講演会についてですが、2月8日に市役所第1、第2会議室において、元白梅学園大学学長、くにたち子どもの夢・未来事業団理事長の汐見稔幸氏を講師にお招きして開催いたしました。

当日は新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、会場参加と合わせ、オンラインでの参加も可とし、学校職員、保育園、幼稚園などの就学前施設の職員など、総勢70名の方々にご参加いただきました。

「幼保小の豊かな連携で21世紀型教育を切り拓こう」をテーマに、幼児期からの教育の質を高め、非認知スキルを育てることの重要性、また、それを小学校へ繋げるため、幼保小の職員間で交流していくことの重要性などをお話しいただきました。

講演会の内容を参考に、今後も子ども家庭部、教育委員会、事業団で連携し、幼保小連携の取組を推進してまいります。

次に、子どもたちを対象とした体験事業についてですが、コロナ禍において自由な遊びが制限されている子どもたちに向けて、児童館が中心となって4つの体験事業を企画し、12

月に実施しました。本事業は、夏休みに行った「子どもの居場所@くにたちクイズ・スタンプラリー」と連動しており、スタンプラリーをコンプリートした121名の中から約60名の子どもたちを抽選し、参加していただきました。

体験の内容は、映像の撮影と編集を体験する「Youtuber（ユーチューバー）コース」、身の回りの空き箱などを使ってカラクリ装置を作る「ピタゴラ装置作成コース」、子ども家庭支援センター入口の壁をキャンバスに自由に描く「モダンアートコース」、本職の落語家から直接指導を受ける「落語体験コース」という、日常ではなかなか体験することのできないことをテーマに設定しました。

当日はいずれのコースも大変に盛り上がり、子どもたちからも「すごく楽しかった。また参加したい」「他のコースも体験したかった」との声が多数あがりました。当日の様子は、市のYouTube公式チャンネルにて動画を配信しております。

コロナ禍において子どもたちの生活にも様々な制限がされるなか、楽しみや体験を提供することができました。今後も児童館事業、また子どもの居場所の充実を図ってまいります。

次に、生活環境部関係です。

国立市中小企業等経営支援金についてですが、6月1日から

受付を開始し、1月15日に受付を終了しました。累計849件、95,813,000円の給付を行いました。

次に、城山公園についてですが、令和元年（2019年）11月、農の営みが残る原風景を後世に引き継ぐため、国立市土地開発公社において先行取得した城山公園南側の生産緑地1筆について、令和2年（2020年）11月に開催されました第42回国立市都市計画審議会において、都市計画公園に変更する旨の決定をいただきました。

次に、くにたちフードドライブの実施についてですが、例年、環境フェスタくにたちでSDGsにもつながる、食品ロスを減らす取り組みとして行っていましたが、コロナ禍で環境フェスタくにたちが中止になったことから、12月4日から1月15日の間に市役所でくにたちフードドライブを単独で実施しました。来庁された皆様より多くの食材を提供していただき、子ども食堂や児童福祉施設等に届けることができました。ご協力いただいた皆様に心より御礼を申し上げます。

次に、都市整備部関係です。

「市長と語るタウンミーティング」についてですが、11月

21日に「南部地域のまちづくり」をテーマに開催いたしました。

当日は18名のご参加をいただき、道路や市街地の整備、農業、企業誘致など、南部地域のまちづくりに関する様々なご意見やご要望をいただきました。

次に、地元の農産物を直売する「くにたちマルシェ」の開催についてですが、10月24日と、11月から12月にかけては毎週土曜日に、国立駅北口駅前広場で開催いたしました。多品目の秋冬野菜が並び、「くにたち野菜」や国立の農業の大切さを広める良い機会となりました。今後も定期的に参加してまいります。

次に、旧国立駅舎へのピアノの寄贈についてですが、12月20日に東京国立白うめロータリークラブより、アップライトピアノを寄贈いただきました。改めて感謝申し上げます。

当日はこのピアノを使って、国立音楽大学附属高等学校及び東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校に通う高校生3人によるミニコンサートを開催しました。

今後につきましては、旧国立駅舎でのイベント時に使用するほか、ストリートピアノとしても活用し、多くの方が音楽

と触れ合う機会をつくってまいります。

次に、教育委員会関係です。

「市長と語るタウンミーティング」についてですが、2月6日に「コロナ禍における学校教育」をテーマに開催いたしました。

当日は14名のご参加をいただき、新型コロナウイルス感染症が学校教育にもたらした影響とその対応について、様々なご意見やご要望をいただきました。

次に、成人式についてですが、二部制の導入、開催時間の短縮など新型コロナウイルス感染拡大防止策を徹底する中で1月11日にくにたち市民総合体育館で実施し、新成人対象のおよそ49.7%、424人のご参加をいただきました。

終わりに、本定例会には、令和3年度国立市一般会計予算案等29議案を提出させていただいておりますが、国立市市税賦課徴収条例等の一部を改正する条例案につきましては、国会の審議の状況等により、追って提出させていただきます。また、国立市副市長選任の同意等人事案件2件につきましては、準備が整いしだい追加議案として提出させていただきます。

さらに、ワクチン接種をはじめ、必要となる新型コロナウイルス感染症対策のための費用及びKuni-Biz事業に関する費用を計上するため、令和3年度一般会計補正予算（第1号）案を令和3年度一般会計予算の成立後に提出を予定しておりますので、よろしくご審議いただきますようお願い申し上げます、行政報告といたします。

令和3年（2021年）2月24日

国立市長 永見 理夫